秋田県五城目町教育委員会

世代を越えた学びの創出・みんなの学校！

～学校開放を利用した社会教育講座群の構築～

はじめに

令和４年度より五城目町教育委員会は学校開放を利用した社会教育講座「五城目みんなの学校」を実施している。今回は、その取組がどのような過程を経て作られ、どのような観点で実践しているか、概念・制度・手法の3つの点から説明したい。あわせて、本町が考えるこれからの地方の教育環境の在り方や教育行政の役割についても説明したい。

公式 HP　https://gojome-gakko.net

1.　みんなの学校ができるまで 概念の確立

平成 29 年度から、本町では唯一の小学校である五城目小学校改築事業に着手した。事業の一環として、住民が学校改築に期待することの意見を聴取するため、スクールトークという取組を続けてきた。この取組は小学校完成までの4年間で 10 回実施され、住民の様々な要望を反映した校舎が完成した。話し合いの中で、住民からは地域の人が参加できる学校・地域が見守る学校を望んでいるということが見えてきた。当町ではコミュニティ・スクールは従来から実施しているが、より気軽で簡単に地域住民が学校の学びに参加できる方法やきっかけ作りのような取組に対する要望があった。一方で、従来の生涯学習・社会教育講座ではカバーできていなかった領域や、画一的な講座では足が向かない人たちにどのように学習機会に参加してもらうかという課題とともに、コロナ禍で人々が集う機会が失われていたことに対してどのようにケアをしていくか考える必要があった。そのような状況下で、新しい校舎を使いながら、誰でも気軽に学び集える機会を作るため、学校開放を利用した社会教育講座を展開していくこととなった。つまり、みんなの学校は新しい集い方を模索する過程で、学校改築事業の際の地域住民の要望に応える形で始まった。言うならば、地域と学校の関係を再構築しながら形作られていった取組なのだ。

現在の学校教育は、よりよい社会を創る人材育成を目標にしている。一方で、社会教育は社会課題を解決し、よりよい社会の実現を目指すためのものと言える。2つの教育は同じところを目指してはいるが、それぞれ別のものになっている。地域と学校の関係を再構築すると言うと漠然としているが、同じことを目標にしているので

あれば、実はより効果的・効率的に学習形態を創ることができるのではないかという観点から事業の概念が固まっていった。

当町では、たまたま学校改築時に関係を再構築する機会があったが、実はそれほど大きな機会でなくても、例えば、コミュニティ・スクールや PTA といった活動時に地域住民が“学校”について考える機会は設けることが可能で、小さな日常の中での積み重ねも大切と考えている。

（五城目町の学校改築事業についての取組は文部科学省 /mextchannel で講演動画が公開されている。）
https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbBRUHxq9HpBYC4Lvx2_LmQr

2. 制度としてのみんなの学校

では、みんなの学校とはどのような制度かというと、一言で言えば、“学校開放を利用した社会教育講座”なのだが、実施形態は様々ある。

（1）学校の授業を住民に開放する講座

最も特徴的なのがこの開催方法なのだが、学校からの依頼を受け外部講師を探すというものである。これには条件が一つだけあり、それは住民にとっても学びとして成立することである。実施例としては、当町は 500 年の歴史を誇る朝市が有名なのだが、その朝市での取組を紹介する講座を開催した。これは、社会教育の観点からは、コミュニティ・ビジネスの創出や住民活動を紹介するなどの意味を持っているが、小学生にとってはふるさと教育の一環として捉えることができる。このような形で、ある学びを俯瞰して捉え、その効果を社会教育の観点と学校教育の観点両方からすり合わせて講座を展開している。

その他、例えばボッチャ講座では、学校教育としては障害理解や体育の要素を取り入れながら、地域住民に対してはニュースポーツの普及という観点から体力増進を図っている。このように、大人も一緒に小学校の授業に参加する仕組を用意している。

（2）社会教育を学校授業として展開する講座

これは前述とは逆のパターンであり、もともと社会教育講座として展開する予定だったものを学校活動に取り込んで、大人も子どもも一緒になって学ぶ機会を創出している。例としては、インターネットの健全利用講座がある。もともとは大人向けの講座ではあるが、近年、子どもの情報リテラシー向上やネット上のトラブル回避などが求められており、社会教育上の目標と学校の要望が合致する分野も存在する。

（1）と（2）は大人と子どもが学校の授業中に一緒になって、同じ空間で同じ授業を受ける。お互いに学び合う姿は、それぞれに刺激を与えてくれる。子どもが気づかないことに、ちょっと大人が手を貸したり、逆に大人は気付かない発想が子どもから生まれてきたり、双方にとって有意義な時間となっている。

（3）学校の下校時間に合わせて実施する講座

これは子どもを迎えに来る大人をターゲットにし、1時間早く迎えに行き、ちょっと勉強して小学生と一緒に帰るといった、日常の一コマに学びの要素を加える仕掛けとなっている。

また、夜間や休日の講座は受講者のターゲットを変えながら、組合せを重層的にして参加しやすくなるよう工夫している。例えば、家庭教育の観点からの時短家事講座を休日に開催した際は、受講者の中には子育て世代も多いため、同時に子供向けのｅスポーツ講座を実施して託児機能をもたせ、幅広い層が気兼ねなく学びと集いのきっかけをつくれるよう意識して展開している。

（4）行政課題を地域課題として捉える講座

社会の課題を解決するのが社会教育であると言葉でいうのは簡単なのだが、一体何をもって社会教育というかは難しい。しかし、地方自治体の業務の視点から考えると、どれも地域の課題と直結していると言える。みんなの学校では自治体業務を社会教育講座として展開している。例えば、公共交通の問題を実際に路線バスに乗りながら考える講座や、医療や介護について考える健康づくりに関する講座も地域の課題につながっている。こうした取組は社会教育講座という観点にとどまらず、行政にとっては広い意味での意見聴取の機会となるという側面もある。講座を行う側と聴く側の双方にとって有意義な時間となっている。

（5）既存事業を再活用する講座

当町では、高齢者教室として「率浦大学」、放課後子ども教室としての「わらしべ塾」など、既存の生涯学習メニューも充実している。しかし、取組が長期にわたると、どうしても目新しさが失われてしまい注目度が低くなってしまう。よって、このような既存の学習メニューと連携することで、従来のサービス利用者にも新鮮な風を吹き込んでいる。みんなの学校の講座として従来のサービス利用者に案内することでこれまで通りの利用を促しながら、新たにみんなの学校利用者が既存サービスに興味を持つ機会にもなっている。

みんなの学校は、学校開放を利用した社会教育講座群と説明したが、もっと簡単に言うと、気軽な参観日のように誰でも小学校に通える制度である。そして講座に多角的な性格を持たせることで、人によって様々な見え方があり、従来の生涯学習講座にとどまらない参加者を集めている。例えば、休日に開催した地元の酒蔵による講演では、日本酒好きの方はもちろんのこと、地域の産業や歴史・伝統を考えるきかっけにもなった上に、地域で働き・生きていくロールモデルを学ぶキャリア教育の側面も持たせている。これにより、日本酒好きな人はもちろん、日本酒を飲んだことのない層や小学生までもが講座に参加していた。このように一つの講座でも異なる視点で興味を持つ人間が集まることにより、多様な小さい集いが形成されつながりが生まれていく。つまり社会に開かれた教育により、地域の産業、歴史、文化をふまえて、生き方、あり方を学ぶことで、地域の未来がより豊かになることにつながり、住民と地域のウェルビーイングを向上させるきっかけを作っている。

3.　みんなの学校で実際に用いている手法

次に、講座を構成する上で、特に意識していることを3点ほど説明したい。

（1）学びの旗を立てること

地方では都市に比べて、子どもにとっての学習塾・習い事に加え、大人向けのカルチャースクールなど公教育以外の民間プログラムが不足している。それらは必

ずしも学習機会の不足や学習資源が乏しいということに直結はしないのだが、公教育の枠の外にある学習機会を補うこと、学びへのアクセスの創出は必要である。また、厳密には公教育の外にある地域の習慣や慣例・自然の中での体験から学びを得ることも多々ある。

みんなの学校では、学校を会場にしながら、新しい分野に学びの旗を立てることで、公的な学びの枠を広げる効果をもたせている。そのことが多様な要望に応えることとなり、ひいては、人づくり・つながりづくり・地域づくりという社会教育の目標を補完していく作用を持っている。

(2) 地域の教育を可視化すること

新しい旗を立てると前述したが、これまで提供した講座は、実は地域の人材や、地域と何らかのつながりのある人が講師を務めることが多い。実際、五城目町ではこの約10年で移住者や起業家が増えたこともあり、提供できる教育コンテンツが増加している面もあるのだが、パンフレットや WEB でみてもらうと分かる通り、地域にある教育の要素をそのまま表現している。そして講座に人が集まることでそれらの要素が活性化されていくことが、これまでの講座を実施して目に見えてきた。現代的課題などについては、外部の講師にお願いすることもあるが、それはそれで重要であり、みんなの学校で、講座として取り上げた分野が町民の手で活性化されることには違いない。つまり、地域の教育要素を可視化すると地域の活性化も可視化される効果があるのである。

(3) 循環し自走する学びの展開

「持続可能な地域づくり」という講座を実施した。この講座は、町に興味を持った学生を連れて頻繁に町内でフィールドワークを実施している大学の先生の専門分野である。現代的課題へのアプローチとして実施した講座だったが、後にこの先生は国際協力機構（JICA）に五城目町を紹介し、今度は JICA が町に興味を持ち頻繁に訪問してくるようになった。そして、現在では JICA が五城目小学校と連携し授業を展開している。このように一度、公的な学びの隣に学びの旗を立てると、そこに自然発生的につながりができて、小学校の教育に還元され、地域全体の教育環境がより豊かになっていくという循環が起きつつ、学びが自走していく展開が生まれる。もしかすると教育委員会の知らないところで多々このような自然発生的なつながりは起こっているのかもしれない。いずれにしても一度つながりができると、それがまた次の扉を開き、必ずしも最初につなげた人間がいなくても、十分に自走して関係は続いて、より発展していくのである。

これら（1）～（3）の手法を通して、学校教育は教育内容をより社会や地域に近いところで展開する効果が期待できるし、また、社会教育もより社会に開かれていく。そして学校と地域が同じ目線で地域の課題に向き合っていくことにつながる。開かれた教育課程がより教育過程を地域・社会に開かれたものにしつつ、地域・社会を成長させ、学校教育と社会教育両方の可能性を拓くという現象が身近で見られている。

4. 地域・社会の自己肯定感形成のため

全国学力学習状況調査では、自己肯定感に関する設問がある。自己肯定感とは自分の良いところを認識するという意味よりは、自分の長所だけでなく、短所も全て含めて、あるがままの自己を受容できているかというのが本来の言葉の持つ意味だと思う。

ここ数十年、日本を表す言葉として“失われた 30 年”

や“過疎化”といったネガティブなものが多いが、地方は長所を見失っているように思う。少なくとも人口が減少し続ける過疎地域で、住民がポジティブな要素を見つけづらいのは間違いないのかもしれない。実際に教育行政として直接できる過疎対策などないのかもしれないが、それでも、住民の自己肯定感を高め、また、地域の自己肯定感を高めることは教育行政の大きな役割だと思う。一方で、都市に暮らす人々も、希薄な人間関係から自己肯定感の低さは課題となっている。いずれにせよ、それぞれの地域の持続性に対して教育行政の果たす役割は今まで以上に大きくなる。そんな中で、地域住民の多様な成長が、様々な希望を与えてくれるはずだ。みんなの学校は地域の教育的要素を可視化し、自分たちの周りにこんなにも学びがあること、地域が様々な要素で成り立っていて、それぞれに独自性があることに気づいてもらう機会を創出して行く取組であり、地域づくりを支えていくとになると考えている。今後も、個人の自己肯定感だけでなく、より地域・社会の自己肯定感にもアプローチし続ける取組にしていけるよう発展させていきたい。

おわりに

2023年のみんなの学校のパンフレットには、“人生の腰掛は多いほうが楽しい”と添えた。学習機会の増加は、集いの機会の増加につながっている。“集い”といっても様々な形があるが、人はそれぞれが多様性に満ちており、何か一つのコミュニティに属しているからと言って満たされるものでもない。また現代は深いつながりは敬遠されがちである。ただ他方で、これだけインターネットが発達し、個人の趣向に基づいた探求活動には困らない社会だからこそ、人が気軽に集まれる腰掛けのような機会は見直されていて、そのような集まりが個人の中の多様性を満たしてくれるのかもしれない。みんなの学校を通して、町民と地域の自己肯定感が高められていることが見られるとともに、気軽な集いの創出で個人の興味関心の幅が広がり、町民と地域のウェルビーイングが高まってきているのを感じ取ることができる。

みんなの学校は学校開放を利用した社会教育講座というシンプルな仕組みで、簡単に真似ができる制度設計になっている。全国の自治体でそれぞれのみんなの学校をつくっていただければ楽しい取組みになっていくとの思いから、あえて複雑な行政手法は避けている。

ちなみに“五城目みんなの学校”は町民以外も参加可能にしている。これは町内に留まらず単純に同じことに興味を持っている人同士が友人になってもらえればと考えているからである。これまで首都圏はもちろんのこと遠くは沖縄県からの参加もあった。

ここまで読んで頂いた皆さまも、興味がある方はぜひ気軽にご参加下されば幸いである。また、本記事を読み興味を抱いた自治体の皆さまなど、ご連絡頂けたならば講座コンテンツの共有やみんなの学校の姉妹校提携など、様々な連携を展開できればと考えている。ぜひ一度みんなの学校見学としてご来校頂きたい。

秋田県五城目町　https://www.town.gojome.akita.jp/
五城目町立五城目小学校　http://www.goshou.net
五城目みんなの学校　https://gojome-gakko.net
五城目町教育留学　https://gojome.net/ryugaku/